

# 再発見・牛久第二十六話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

## 牛久と由良家⑦

### 石清水八幡宮

(新田・由良家氏神(弓矢の神))  
 の分社・東端穴町鎮座の八幡神社  
 —主たる神事弓(流鏑馬)—

### 八幡神社(東端穴町鎮座)

—新田(義貞)・由良家の氏神(弓矢の神)として創建—

東端穴町地内に鎮座している八幡神社は、東端穴村の鎮守の社としての創建といわれているが、正確には武家の名門清和源氏・新田家(その直系由良家)の氏神(弓矢の神)として創建されたのだ。

その由来は概ね次のようだ。八幡太郎・源義家の孫にあたる(義国の子)義重が、上野国・新田庄(現在の群馬県太田市)の下の職として土着し、新田と名のつた(義重の同族源頼朝は鎌倉幕府を創設した)。義重は同地に山城国綴喜郡男山(現京都府八幡市)の石清水八幡宮より『八幡大神』を分霊してきて八幡神社を造営、新田家の氏神(弓矢の神)とし、これを代々が尊崇してきた。義重の7代後の義

貞は、鎌倉を攻めて鎌倉幕府を倒した。義貞の九代後の由良国繁が、豊臣秀吉より牛久などの領主に任せられ牛久城に移ってきたときに、八幡神社を新田の地から牛久城の一郭に遷祀した。その後八幡神社は、国繁の孫定長の代の元和9年(1623年)に由良家領だった河内郡東端穴村に遷祀されたのだ。

### 八幡神社の弓神事・流鏑馬 —鶴岡八幡宮(石清水八幡宮) より分祀)—

流鏑馬が行われていた

東端穴区居民に尊崇されている八幡神社では、秋の例祭があり、それは毎年旧暦の8月15日、中秋の名月の日に催される。

神事としては、奉納流鏑馬と奉納相撲がある。

流鏑馬は、弓での的を射て神意を占う神事で、馬に乗って行う流鏑馬と、徒歩で行う歩射とがある。

神社の神域(境内)などで、馬を走らせながら的を射るのが流鏑馬である。平安時代の資料にも記されているが、鎌倉時代の武家社会で盛んになった。

当八幡神社で行われる流鏑馬に使用される弓矢と的は手づくりで、弓はうづぎの若木、矢はしの竹で作る。以前は、八幡様の裏山に矢篠が植えてあつて、この矢篠で矢を作ったものだが、矢篠が西大通り新設にさいして根こそぎ除去されたため、普通のしの竹を使用している。的は紙としの竹で作る。

八幡神社が上野国の新田庄や牛久城内に鎮座していた当時の流鏑馬は、馬場が設けられ、鶴岡八幡宮(現鎌倉市に鎮座)で見られるような勇壮なものであった。当地に遷座されてからも馬場(八幡神社の前の土地の字(小字)地名が馬場)が設けられ勇壮に行われていた。しかし、星移り年変ると、境内の両端の的を立てて、寺世話役(八幡神社と真言宗・自在院(明治初年廃寺))

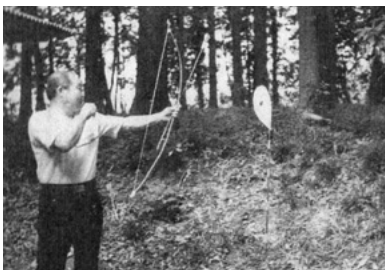
が神仏習合であったが、矢を射るまねごとをするだけとなった。

### 八幡神社の本社

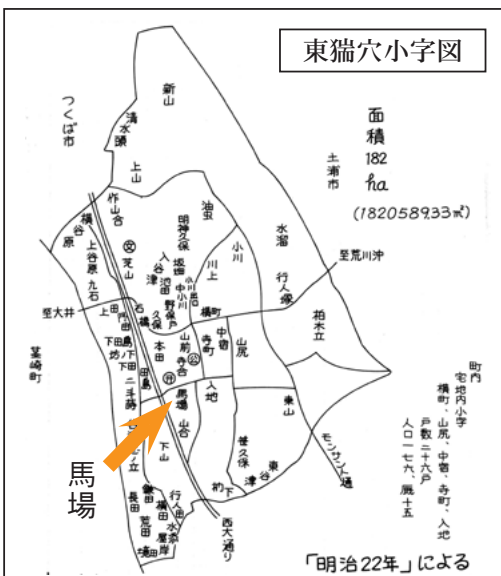
### 石清水八幡宮と清和源氏武士

石清水八幡宮の祭神・八幡大神(第15代応神天皇(誉田別尊)は清和源氏の守護神で、氏神であり、弓矢の神であった。

歴代天皇の皇子・皇女とが源と称したのは17家あるが、これら源氏のうち最も栄えた清和源氏は、第56代清和天皇の孫・経基が苗字を『源』を名のつたのに始まる。経基より満仲、頼信、頼義とつづき、頼義は、長子義家七歳のとき、石清水八幡宮で元服させ、八幡太郎と呼んだことは史上で広く知られる。



流鏑馬  
 (現在行われている矢を射るまねごと)



かつては馬場において勇壮な流鏑馬が行われていた